

# 情報空間の健全性確保に貢献する取り組み

デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会 第12回

日本放送協会 説明資料

日本放送協会

2024/3/15

**NHK**

## NHKの次期中期経営計画

究極の使命は、「健全な民主主義の発達に資する」こと

情報空間の健全性を確保することで、平和で豊かに暮らせる社会を実現し、民主主義の発展に寄与することが求められている



「情報空間の参照点」の提供  
「信頼できる多元性確保」への貢献

### NHK経営計画 2024-2026年度

究極の使命は、「健全な民主主義の発達に資する」こと(放送法第1条)  
今、日本の公共放送(メディア)NHKに何が求められているのか

公共放送(メディア)をとりまく環境が大きく変化しています。

自然災害の激甚化が進むなか、視聴者・国民のみなさまの命と暮らしを守る緊急報道の重要性はこれまで以上に増えています。また、デジタル化の加速は社会の利便性を高めた一方、フェイクニュースのまん延で社会の混乱を招くなど、負の側面が課題となっています。“正確で信頼できる情報”への期待は、一層高まっています。

世界では、ロシアによるウクライナ侵攻をめぐって、政府から独立して公平公正な報道等を行い、「健全な民主主義の発達に資する」という公共放送の役割が再認識されています。

公共放送であるNHKも、情報空間の健全性を確保することで、平和で豊かに暮らせる社会を実現し、民主主義の発展に寄与することが求められています。

こうした経営環境のなかで、NHKは次の3か年において、2つの基軸をもとに公共放送の役割を果たしていきます。

ひとつは「情報空間の参照点」を提供することです。インターネット上で不確かな情報があふれるなか、視聴者・国民のみなさまにとっての“よりどころ”となる、正確で信頼できる社会の基本的な情報を提供したいと考えています。

もうひとつは「信頼できる多元性確保」に貢献することです。民主主義の基盤である多角的な視点を確保するために、情報空間において、伝統メディアが競い合いそれぞれの信頼性を高めることに寄与したいと考えています。

「情報空間の参照点」の提供

信頼できる基本的な情報を提供すること

「信頼できる多元性確保」への貢献

民主主義の基盤である多角的な視点

# これまで「放送」が果たしてきた役割

インターネット普及以前は、放送や新聞、雑誌等のメディアが主な情報発信主体

偽・誤情報そのものが広く拡散することは限定的  
取材を通じていかに事実を正しく把握し、正確に伝えるかが主眼であり、課題でもあった



自主的にガイドラインを定め、4つの基本的姿勢を公表  
「正確」「公平・公正」「人権の尊重」「品位と節度」

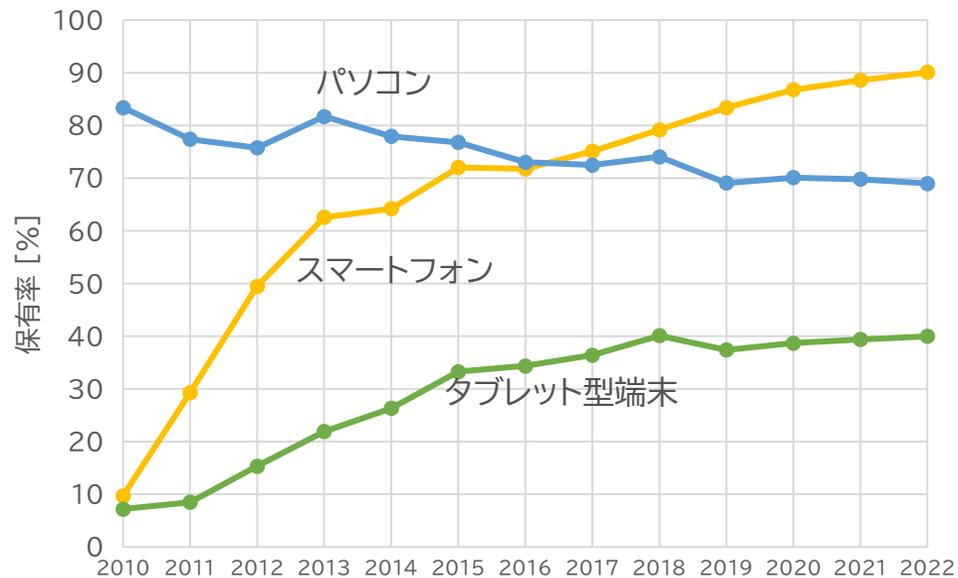
## 2. 放送の基本的な姿勢 「正確」

- NHKのニュースや番組は正確でなければならない。  
正確であるためには事実を正しく把握することが欠かせない。  
しかし、何が真実であるかを確かめることは容易ではなく、取材  
や制作のあらゆる段階で真実に迫ろうとする姿勢が求められる。
- ニュースや番組において簡潔で分かりやすい表現や言い回しは必要だが、わかりやすさのために、正確さを欠いてはならない。
- 番組のねらいを強調するあまり事実をわい曲してはならない。
- 事実関係の誤りが明らかになった場合には、速やかに訂正する。



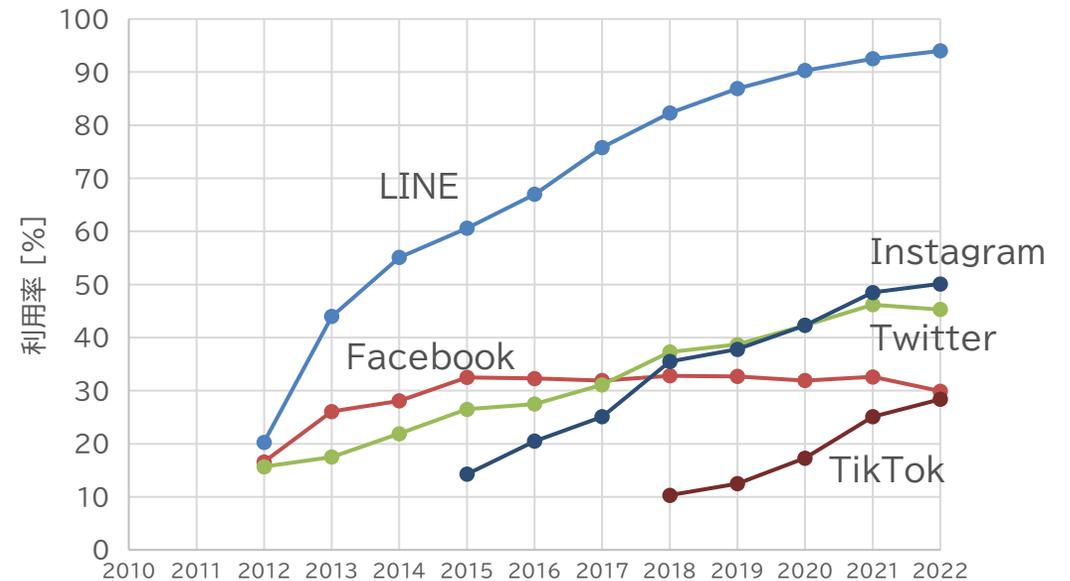
スマートフォン、SNSの登場により、個人が簡単に情報発信ができるように  
SNSの投稿の中には事件・事故を伝えるものもあったが、  
当初はユーザーが少ないこともあり偽情報の拡散は限定的

引き続き、取材を通じて事実を正しく把握し、正確に伝えることが主眼  
偽・誤情報を打ち消す必要性は低かった



情報通信機器の世帯保有率の推移

(出典)総務省「通信利用動向調査」



代表的SNSの利用率の推移

(出典)総務省「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

- 2011年の東日本大震災と原発事故では、大量のSNS発信がされるようになるとともに、SNSが重要な取材ソースに
- 取材・制作現場では、記者の専門性に基づき、必要と判断した情報を事実確認のうえ、ニュースとして送付
- しかし、あまりにも膨大に発信される被害情報、救援情報、偽・誤情報に対して、体制もなかったため、ほとんど報道に生かすことができなかった



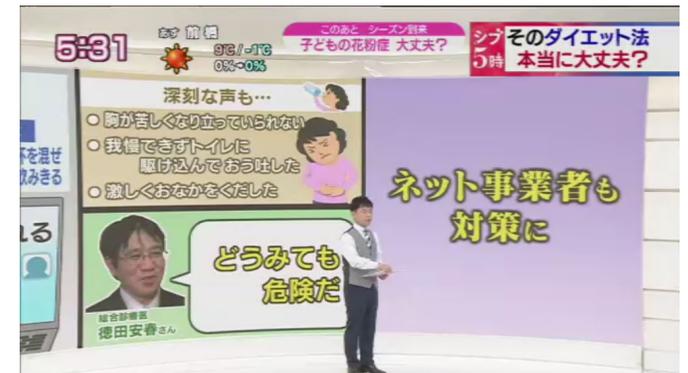
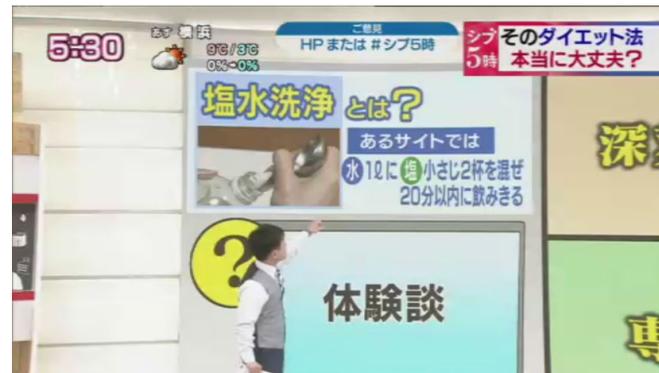
SNSから発信される大量の情報を収集・分析し、重要な情報を報道につなげられるようにするため、SNSに対して本格的に向き合うソーシャルリスニングチーム(SoLT)を設立（2013年）



SoLTは、主に事件・事故や災害現場で何が起きているかを伝える重要な取材ソースとしてSNSの情報を収集・分析

→災害時の情報や医療健康情報などのSNS投稿の中には情報が拡散し、実社会に影響を及ぼすものも出てきたため、都度対応をするように

- 熊本地震「動物園からライオンが逃げた」(2016年)
- 大阪北部地震「京セラドーム大阪の屋根に亀裂」(2018年)
- 医療・健康に関するさまざまな偽情報、根拠のない情報



「塩水洗浄」ダイエット法は本当に大丈夫か(2017年)

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、科学的根拠が不確かだったり、不安をあおる情報などが数多く発信され、急速に拡散

→実社会への影響がより深刻になり、ニュースや番組で取材し報道

## イベルメクチン 有効か？



国内外の複数の研究機関や製薬会社、専門家等に取材

- ・取材時点で治療効果に十分な科学的根拠ない
- ・有効性や安全性は確立していない ことなど

それぞれの根拠やコメントとともに報道

## “ワクチンで不妊”の誤情報



約20万件のSNS情報の専門家との分析結果をもとに

- ・発信源は少数のアカウント
- ・広がる背景に「拡散者」が存在
- ・一部の医師などもSNSで発信などの情報をもとに提示

- ・省庁や研究機関の否定情報を情報源とともに伝える
- ・医師や専門家の見解をもとに注意点・対処法などを伝える

「専門家や研究機関(海外を含め)に直接取材する」

「一次情報にあたって何が事実かを一つひとつ確かめ、その取材結果を根拠とともに伝える」

→「偽・誤情報」かどうかの結論のみではなく、そう判断した過程や根拠を積み重ねる「検証報道」のスタイル  
一次情報や情報源に加え、背景や対策を伝えることにも重点を置くように

# 偽・誤情報のさらなる拡大に対する対応

生成AIの登場等により、偽・誤情報拡散の増加、影響がより深刻に  
ニュース等で繰り返し取り上げるように

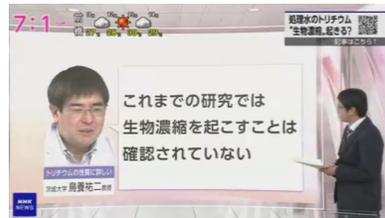
▼ 関東大震災100年(2023/8)  
災害時に回るデマを分析、注意呼びかけ



▼ 岸田首相の生成AI偽動画 (2023/11)



▼ 福島第一原発処理水(2023/9)  
「トリチウムが生物濃縮」説を検証



▼ クマとメガソーラー(2023/11)  
「クマ被害増加の背景にメガソーラー」説を検証



▼ イスラエルとハマスの軍事衝突 (2023/11)  
市民にも分断が生じる背景にフェイク情報 100万回以上見られた偽動画など



▼ 選挙イヤーとフェイク(2023/12)  
2024年に相次ぐ選挙で懸念される 生成AIによるフェイクと急がれる対策



- 生命・財産に影響を及ぼすもの(実社会への影響)
- 一定の広がりがあるもの
- 「意見」ではなく「事実」に関する部分

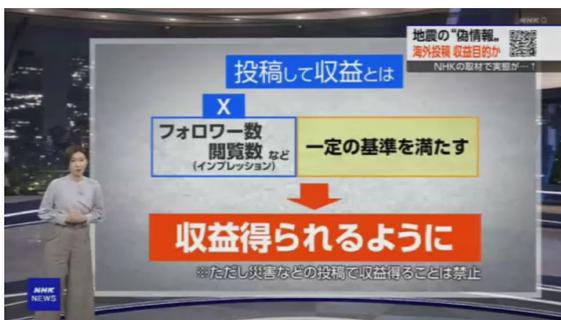
などを考慮しながら検証・報道

# 能登半島地震における偽・誤情報対応

## 能登半島地震でもあふれる偽・誤情報へ対応

### SNSが抱える構造的な問題が顕在化 “インプ稼ぎ”

2月2日放送

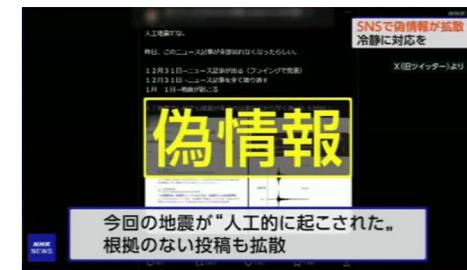


実在しない住所や無関係の画像などの偽情報を分析  
投稿の発信元の1つとみられるパキстанを現地取材  
SNSを通じて収益を得ようとする若者の背景に、  
インフレや高い失業率などがあることを伝える

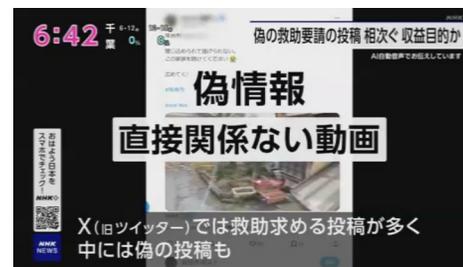
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240202/k10014341931000.html>



偽の救助要請など(1月2日)  
安易に拡散しないように冷静な対応を呼びかけ



人工地震(1月2日)  
専門家に取材し、人工地震とは考えられないということを報道



インプ稼ぎ(1月5日)  
収益を得る目的で、偽の情報を投稿しているケースもあると注意を呼びかけ



外国系窃盗団(1月10日)  
石川県警察本部に取材し、これまでに「外国人の窃盗団」は確認されていないことを報道

メディアでしかできないことの模索 = 一次情報の取材など  
大量の偽・誤情報が拡散する中、取り上げる基準は継続課題

ニュース、番組、教育番組、国際放送、インターネットなど、さまざまなチャンネルや態様で、分かりやすく、興味深く、幅広い世代・対象に伝える

- ▼ 番組「[フェイク・バスターズ](#)」  
偽・誤情報の見極め方を専門家と考える



- ▼ アニメ番組「[ネズリテ](#)」  
ネットやSNSの落とし穴について5分で学べる



- #1 その写真、本物？
- #2 フィルターバブルこわい
- #3 ステマとルッキズム

- 総合・Eテレのさまざまな時間帯で、それぞれ5～6回繰り返し放送（多数の視聴者の接触を期待）
- エンタメにしてハードルを下げる

- ▼ 小学校高学年・中学生向けの教育番組  
「総合的な学習の時間」の授業などで活用

「[アッ！とメディア](#)」



そのニュース広めて大丈夫？

「[姫とボクはわからないっ](#)」



あれよあれよで拡散じゃ！！

- ▼ 国際放送 NHK WORLD-JAPAN

偽・誤情報についても報道



- 従来の放送の役割は、取材に基づく正確な情報を伝えること  
→偽・誤情報の急速な拡散が実社会への影響を及ぼす中、取材に基づく「正確な」情報の発信と同時に、拡散する偽・誤情報の検証報道や、偽・誤情報の拡散を未然に防ぐことに寄与するコンテンツを、積極的に提供する役割も求められている
- 単なるファクトチェックによる偽・誤情報の判断だけでなく、一次情報にあたり、その過程や根拠、背景や対策なども含めて、視聴者が検証が可能な形で伝えていくことが、取材を通じて事実を把握し、正しい報道に努めてきた報道機関の役割。その際、「意見」と「事実」を切り分けて扱うことが重要
- これまで培った取材やコンテンツ制作のノウハウ、そしてさまざまなチャンネルを通じた発信により、ファクトチェックやメディアリテラシーなどの偽・誤情報対策を、分かりやすく興味深く、そして幅広い世代に伝えていくことが公共放送としての役割

「情報空間の参照点」としての役割を果たすには、NHKへの信頼性の維持・向上も必要  
偽・誤情報対応に限らず、取材過程などの透明性を高め、検証可能な報道の取り組みを始めている

- ▼ 分かっていること、分かっていないこと、取材の途中経過であることを明確にしたり、出典を可能な限り明示することなどを検討していく
- ▼ オープンデータを活用するOSINT(Open Source Intelligence)を取材手法として取り入れているが、取材プロセスの可視化と親和性の高い手法であることも意識して取り組む

NHKスペシャル  
調査報道・新世紀  
File2「北朝鮮 極秘ミサイル開発」  
(2024年1月14日)

[調査に当たったメンバーの紹介やその調査内容、番組内で使用したデータなどを掲載](#)

## 北朝鮮の“ロシアへの武器輸送疑惑”を追跡

2023年9月、北朝鮮のキム・ジョンウン(金正恩)総書記が4年ぶりの外遊でロシアを訪問し、プーチン大統領と会談をしたと伝えられました。両国の間で一体何が起きているのか。

オシントを駆使して水面下の動きを探っているのが「イギリス王立防衛安全保障研究所」です。19世紀前半に設立された安全保障問題のシンクタンクで、2022年にオシント専門の分析チームを正式に創設しました。番組内でインタビューに応じているジェームス・バーン氏が、チームのディレクターを務めています。

オシントチームは衛星写真と船舶の航跡情報などの読み解きから、2023年8月以降、少なくとも3つの船舶によって、武器弾薬が入っていると思われるコンテナが北朝鮮からロシアに輸送されていることを突き止め、2023年10月にその詳細を報告書で公表しました。

▼「イギリス王立防衛安全保障研究所」(英語サイト)

<https://rusi.org/explore-our-research/publications/commentary/report-orient-express-north-koreas-clandestine-supply-route-russia> (※NHKサイトを離れます) ▶

偽・誤情報に関する知見や対策を共有するネットワークに参加し、生成AI対策、メディアの信頼性、選挙フェイク対策などを議論

伝統メディアどうしの連携等により、偽・誤情報対策の実効性、持続性を高められるのではないかと

## ▼ Trusted News Initiative(TNI)

- BBCの呼びかけで作られた  
メディアとITプラットフォームの連合組織
- 2023年3月年次総会に参加
- 生成AI対策・メディアの信頼性など議論



なりすましは社会に混乱をもたらし、伝統メディアの信頼性をゆるがす  
利用者/視聴者が“本物”か“偽物”(改ざんされた情報)なのかを見極められるようにする必要

## ▼ 発信元の真正性やコンテンツの来歴を検証可能とする技術的手段の開発に参加

- C2PA/CAI\*1、OP\*2

\*1: The Coalition for Content Provenance and Authenticity/ Content Authenticity Initiative

\*2: Originator Profile



【NHKへのなりすましSNSアカウント】



【NHK NEWS WEBを装った“フェイク記事”(1月31日)】

- インターネットの発信においても、「放送の基本的な姿勢」は変わらない
  - 「インターネットにおいても、NHKが発信する情報である限り、公共放送にふさわしい良質な情報であることが求められる」「内容の正確性や公平・公正、表現などに十分配慮して公開する」
  - 「インターネットで発信した情報やコンテンツの内容に誤りがあった場合は、放送と同様、速やかに正しい内容に訂正する」

(放送ガイドライン2020より抜粋)
- ネット空間においても、放送と同様に、事実を正しく把握し、正確な情報を伝えること、誤りが明らかになった場合は訂正すること、を通して信頼を得ていかなければならない
- また、NHKなど、単一の情報源だけでなく、質の高い競争によって、利用者の方々に多角的な視点が確保され、そうした情報に容易にアクセスできる環境が必要ではないか
- 情報の質の向上にインセンティブが働く仕組みの構築が重要ではないか

***NHK***